



職業柄こんなことを言うのかもしれませんが、最近は攻略誌などで解析数値を調べるのが徳劫で仕方ない。内部システムは複雑で、設定推測も難しく、さらには各種数値を覚えたところであつたという間にホールから去っていく機種ばかりという状況では、調べる気がしないのだ。それでも何とか「仕事だから覚えておかない」と自分に言い聞かせて数値と睨めっこをしてみるが、そんな調子で頭に入るともなく、ただ目を通すだけで何となくわかった気になってしまっている。これでは、教科書をぼんやりと眺めているだけで勉強した気になつている学生と同じである。

そういう心境になるたびに、ジャグラーやハナハナの偉大さを思い知る。多少のマイナーチェンジはあるものの、基本的には「光ればOK」という単純明快なゲーム性であり、それ自体は4号機の頃から変わらない。横原敬之が「大事

をはじめ、地域によっては沖スロのほうが強かったりもするし、もちろん、地域にかかわらず沖スロを推しているホールも少なくはない。高設定域の機械割は魅力的で、昨今のAT機に比べれば安定した出玉推移を描くため客側としては狙いやすく、また、ホール側としてもアピールしやすい機種であることは間違いない。事実、『レバーオン』の収録ホールにも沖ス



ハナハナ鳳凰の白頭レギュラーのBGMは、ロールプレイングゲームのボス戦っぽい。目を閉じればほら、まるでギルガメッシュとの死闘がよみがえってくるかのようです。

なのは変わって、変わらぬに「ことごとくジャグラーやハナハナを称えて歌っていることからも、2機種はたぶん違うけど。」

ともあれ、このように解析云々に疲れた時はゴーゴーランプ、あるいは華の光に癒してもらうに限るといふことで、今回の実戦機種はハナハナ鳳凰となった。

全国的に見れば、おそらくジャグラーシリーズのほうの設定状況は良好だろう。しかし、東海地方を



この日、覚えているだけでも6回はスイカを取りこぼしました。トントントン、ではなく、トントントントンというリズムで打たないといけないのはわかっているんですけどね。

ロに力を入れていられるであろうホールがいくつかあるほどだ。それに何より、どこか妖しげで、どこか艶やかなハイビスカスの光り方がたまらない。終日打ち切ったあと、布団に入つて瞼を閉じるとハイビスカスがチカチカして眠れないというのは、ハナハナ打ちなら誰もが経験したことがあるだろう。そう、この機種はとにかく中毒性が高いのである。

さて、肝心の実戦だが、この日は早い段階で勝利を確信するラクラクな展開であった。まずは開始からわずか6ゲームでビッグを射止め、その後、持ちコインでビッグ6、レギュラー2と繋がったあと、3回目のレギュラー後になんと上下パネルフラッシュが発生。詳細は明らかにしていないが、発生した時点で高設定濃厚といわれている演出であるし、ここまでの挙動が文句ナシであることから、この時点で高設定を確信した。

今回はさすがに出来すぎであるが、やはりボーナスタイプの高設定は面白い。昨年はハナビの大躍進によりホールの機種構成に少なからず変化があったが、フラッシュオンシーンにおいて裏原系が再燃しているように、パチスロ界においてもボーナスタイプが今一度注目を浴び、あわよくばホールの主役に躍り出るようなことがあれば、2016年のパチスロは、昨年よりも盛り上がるかもしれない。



序盤は白7で揃え続けていたんですけども、どうにも連チャンしなくなってきたので途中からピンクにチェンジ。そうしたら、面白いように連し始めました(オカルト)。

設定よりもヒキに出玉を左右されがちなAT機と違い、ハナハナの高設定は実にノンストレスで回せば回すほど結果がついてくる。もちろん、ハマリをくらうこともあるが、この日は非常に機嫌のいい高設定だったようで、夕方まで打つて最高ハマリは319G。前ノリを控えていたため泣く泣く手放したものの、それでも獲得枚数は納得の3000枚オーバーで、目標枚数大幅達成となった。

### 果たしてスニーカーに届いたのか!?

#### 今回の目標達成度

今回の目標差枚 **プラス1,000枚**

#### 今回の収支

**プラス3,242枚(324.2%達成)**

これで2戦連続の大勝となりましたが、この企画はあくまでも「できればパチスロでスニーカーのお代を賄う」ってだけですので、例え今後ボクが負け続けたとしてもスニーカーは買いますから。そこんとこよろしく。

### 実戦に関係あつたりなかったりする余談です

#### 諸ゲンの実戦こぼれ話

##### ネイビーも欲しいんだよなあ...



今回のターゲットであるコートフォースは全3色での展開で、ご覧のとおり購入したのは赤なのですが、これを買った後にネイビーも欲しくなってきました。まあ、ネイビーはヒールの部分が赤なのでそれよりも今回購入した色のほうが意外と合わせやすかつたりするのですが、どうにも気になってしまい本気で悩んでいます。う〜む。

# 諸ゲンのスニーカーウォーズ

## SNEAKERS WARS

### #2



数多くの魅力的なスニーカー達を購入するため、プラス差枚目指して奮闘。果たして、諸ゲンはお目当てのスニーカーを手に入れることができるのか!?

### 今回のスニーカー

コートフォース自体はそれほど人気のあるモデルではないのですが、グッドイナフとフラグメントデザインがタッグを組むとなれば話は別。ヒール部分に大きくプリントされた「GOODENOUGH」の文字は裏原オールドファンにはたまりませんし、インソールにひっそり入るフラグメントデザインを象徴するサンダーマークも存在感抜群です。藤原ヒロシに憧れた世代としては、これを買って逃すわけにはいきませんって。



- コートフォース
- グッドイナフ × フラグメントデザイン × ナイキ
- 2015年製造
- メーカー希望小売価格 税込19,440円
- レア度☆☆☆☆
- 好き度☆☆☆

今回の目標差枚 **プラス1,000枚**

## もはや裏原系はブームではなく定番 永遠のカリスマ藤原ヒロシ

エイブにナイバーフッドにアンダーカバーと、ボクが中高生の時分にはこれらのブランドがストリートを席巻し、いわゆる裏原系と呼ばれるファッションに身を包んだ若者が街を闊歩していた。もちろんボクも御多分に洩れず、休日になると当時住んでいた熊本県荒尾市から電車に乗って天神へと繰り出しては、キムタクや藤原ヒロシなどが着用していたアイテムを探し歩いたものである。

あれから約15年。これらのブランドが下火になっていった頃もあったが、数年前から再注目されるようになり、その年齢層も十代後半から三十代半ばまでと、当時よりも幅広い客層に愛されるジャンルとなった。その理由は様々だが、おそらく若い人たちは三代目JSBの登坂広臣に憧れ、そして我々世代は藤原ヒロシがデザイン集団「フラグメントデザイン」を展開し、自身がディレクションする『ブル青山』をオープンするなど、以前にも増して精力的に活動し始めたことに感化されたのではあるまいか。その結果、若者とオールドファンが裏原という世界に共存し始めたのだから、昨今の裏原人気はもはやブームなどという軽々しい言葉では

語れない。定番としてこの先何年、何十年と引き継がれていくファッションスタイルだろう。

そして今回のターゲットは、そんな新田裏原のヨロブレイションともいえる逸品、『グッドイナフ × フラグメントデザイン × ナイキ コートフォースSP』である。

グッドイナフといえば、ブランド名を藤原ヒロシが考案したことでも知られる裏原ブランドの代表格。そしてフラグメントデザインは、先述したように同氏率いるデザイン集団であり、ナイキをはじめ数々のブランドとコラボし、その度にストリートシーンに多大な影響を与えているブランドだ。

この二大ブランドがナイキとコラボするというのだから、注目度は言わずもがな。定価は2万円ほどで、現時点ではさほどプレミアもついていないため、間違いなく今が買い時であるといえる。ヨロブレイションがフォースとエアマックスといったメジャーどころではなく、コートフォースという割とマイナーなモデルである点にも両ブランドのセンスを感じること一足、スニーカー好き、ひいては裏原好きとしては、買わないという選択肢は考えられない。